

校長室から 16 横浜緑ヶ丘高校とのコラボ授業  
～ 夏期講習「31 文字の創作講座」 ～

今年の夏は、年度初め2ヶ月にもおよび臨時休業の影響で、夏季休業は大幅に短縮されています。その短い夏季休業の最初の1週間、希望者を対象に、多くの科目で夏期講習が実施されました。その中のひとつ、「31 文字の創作講座」を紹介します。この科目は、県立横浜緑ヶ丘高校とのコラボ授業という形で実施しました。

神奈川県ではすべての県立高校に、昨年度 G-suite が導入されました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、学校が臨時休業になった際には、このツールがあったおかげで、動画コンテンツの配信や、生徒の成果物の提出、質疑や意見交換などをオンラインで実施することができました（詳細は、校長室から 13 をご参照ください。）。登校が始まってからも、対面授業とのハイブリッドでこのツールを利用しています。今回の講座でも、対面授業に加え、G-Classroom（学習教材等の共有ツール）を使い、さらに、横浜緑ヶ丘高校と G-meet（ビデオ会議ツール）でつないで同時に進行するという全く新たな試みでした。

参加生徒は、光陵高校が 13 名、横浜緑ヶ丘高校が 9 名です。それぞれの教室には、相手校の教室の様子が大きく映し出され、発言者の音声も聞こえるという状況で、光陵高校宮崎教諭、横浜緑ヶ丘高校太田教諭の息のあった進行で授業が進みます。1 日目は、この授業を通して身に付けたい力（短歌の基礎知識の理解、上手な短歌の基準の理解、その基準に沿った創作）を確認してスタートです。

上手な短歌とは、「独自の『発見』があり、それでいて誰かに『共感』してもらえる歌」、そして「くびれ理論」がこつという。「くびれ理論」とは、読んだ人の期待や感性をいい意味で裏切るということでしょうか。

そして授業の最後に、2 日目の「歌会」に向けて、参加した生徒には、テーマが提示されました。テーマは、『夏』『光』『緑』のいずれかで、期日までに、G-Classroom で提出します。

間に1日おいて、2日目、参加した生徒の皆さんから、多くの歌が集まってきていました。名前を伏せた形で全員に配付されました。どれも、高校生らしいみずみずしい感性にあふれ、素晴らしいものばかりでした。一首ずつ読み上げた後、両校の生徒から、その歌に関する評、コメントなどの発言が続きます。一つひとつの歌に表れている状況や心情をしっかりと受け止めている様子、思いもよらなかった解釈に驚かされます。自分の作った歌が、教室内の同級生だけでなく、他校の生徒さんたちからも評をもらえ、自分の意図をくみ取ってもらえるのはうれしい経験になったことと思います。



光陵高校での講座の様子



横浜緑ヶ丘高校の皆さん

講座を終えた両校の生徒たちの振り返りを紹介します。

- 短歌の基礎を知り、共感と驚異のバランスに気をつけながら短歌を作ることができた。また、歌会で新たな表現に出会えたので、これからの自分の作品にも生かしたい。
- 色々な作品に触れるというのは、それだけで刺激が得られるし、新しい表現を身につけることができるので、貴重な経験だと思った。
- 自分と全く違う短歌を読むことで考え方が変わった。特に、語彙力の高さが表れている短歌はとても驚くことが多かった。
- 上手な短歌の特徴をみんなで考え、深め合うことにより、よりレベルの高い短歌を作ることができました。また、歌会を通して、横浜緑ヶ丘高校の生徒の皆さんの語彙力の高さに驚いたとともに、色々な人の個性的で特別な感情を知ることができ、とても勉強になりました。1つ1つの短歌に対して、多面的に批評することで、より愛情のこもった作品になったと思います。
- 私は、短歌や俳句などに苦手意識があり、中学の授業で扱ったときも読み解きに苦労しましたが、今回の講座で、どのような点に注目すればいいかを書き手の視点から学ぶことが出来て大変有意義な時間になりました。また、書いた歌を皆さんに褒めていただいたり、私からも歌の素晴らしいところを発言することで、より学びを実感出来て嬉しかったです。同じ夏期講習の子と短歌作り合いっこもしたくらい今は短歌大好きになりました。本当に貴重な経験ありがとうございます！